

第8回二子玉川エリアマネジメントシンポジウムQ&A

Q1	二子玉川は昼間も人口が多くて(楽天さんも居ますし)何か仕掛けるには良い環境ですよね。一方、完全なベットタウンだと確かに難しそうです。この二子玉川の状況はそのまま継続するのでしょうか？
A	コメントいただいているとおり、二子玉川は、居住する方・勤務する方・来街する方のバランスがよく、この状況は足元では大きく変化しないものと考えております。一方で、駅前に大型施設が立地していることから、エリア内の回遊（特に多摩川や商店街エリアとの回遊）については課題があるものと認識しており、当法人としては、この点について継続して施策を打っていきます。
Q2	私は多摩川GPTさんと同じく二子玉川には住んでいないのですが、エリアマネジメントをどのように進めているのかを勉強させていただきたく、参加させていただきました。常日頃イベント・企画を進めていく上で、アイデア探しや先行事例を知るために皆さんがチェックしている媒体（〇〇のHP・ピンタレストなど）がありましたら、教えてくださいませんか！
A	企画・イベントの多くは地元の方々との会話の中で生まれてきておりますが、その他以下媒体なども参考にしております。 1) 官民連携ポータルサイト https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000047.html 2) ミズベリング https://mizbering.jp/ 3) ソトノバ https://sotonoba.place/ 4) エリマネこ https://erimane.com/
Q3	私は二子玉川には住んでいないのですが、西村先生の講演に大変興味がありまして参加させていただきました。都市デザインについては詳しくありませんが、これから学び深めていきたいと思っております。都市空間でのイベントや活動は、地元の人々だけでなく外部からの人々にも大きな影響を与えたいと思います。そのような外部の人々をどのように巻き込んでいく考えをお持ちなののでしょうか？
A 西村氏	「外部からの人」を地域に住んでいない人と定義づけるのであれば、地元が身内だけで取り組んでいるといった空気感を感じさせることなく、間口の広いオープンなイベント・活動であることを宣伝・周知の際に意識することが大事かと思えます。企画・運営サイドが最初から仕込みで、センスの良い外部のプレーヤーに参画してもらい、来場者にどのようなことができるのか「見本・手本」を示すということも非常に大事だと考えます。また、二子玉川クラスの中心市街地においては、公共空間を活用したCSRやマーケティングに興味ある企業を積極的に巻き込んでいくことも重要かと思えます。
Q4	最終的なゴールはアクティビティが誘発され、まちを市民が使いこなすというところにあるのでしょうか？歩車分離等のハード整備につなげることなののでしょうか。
A 西村氏	社会実験等の短期的なアクションの狙いは、フィールドによって異なります。将来的なハード整備を必ずしも前提とはせず、既存の公共空間を使いこなしてエリア価値を高めることを目的とする社会実験もごございます。一方、20~30年という中長期的なスパンでまちづくりを考えた際に、都市空間の再構築が望ましいエリアにおいては、将来的なハード整備に向けて「バックキャスト型」で短期的なアクションから徐々に中期的なアクションへとレベルアップさせていくこともごございます。また、場合によっては既に駅前広場の整備のようなハード整備が数年後に決まっているので、その空間デザイン検討のための社会実験を実施するようなケースもごございます。
Q5	社会実験のフィールド選定に関しては、どのような基準でされているのでしょうか。
A 西村氏	まちづくりにおいて、課題解決と魅力向上の2点が非常に重要であると考えます。社会実験のフィールドを選ぶ際には、地域として解決すべき課題があるかどうか（そして我々研究室が解決に貢献できる課題かどうか）と、地域の魅力を高めるポテンシャルや地域資源があるかどうか、の2点を意識しながら選定しております。社会実験の実施には、当然ながら地元関係者や行政関係者との連携・協力が前提となりますので、地域から社会実験に対する要望があるかどうか、地域とうまく連携できそうかどうか、といったあたりも考慮しております。
Q6	日本が諸外国と比較して、まちに関与するスタンスが少ない理由は何でしょうか。シビックプライドが醸成されるためには、何が必要でしょうか。
A 西村氏	日本では都市やまちに対する関心そのものが、欧米などの諸外国と比較するとかなり低いように感じます。例えば、欧州では市長選等の選挙の際には、必ず都市デザインやまちづくりが大きな論点として注目を浴びます。町内会や自治会といった、旧式の地縁型コミュニティの機能が弱体化している昨今、勤労奉仕でまちへ関わるよりも、共通の趣味嗜好に基づくアクティビティやイベントをきっかけとして、人と人のつながり・人と街のつながりを生み出し、シビックプライドの醸成に取り組んでいけると良いのではないのでしょうか。